

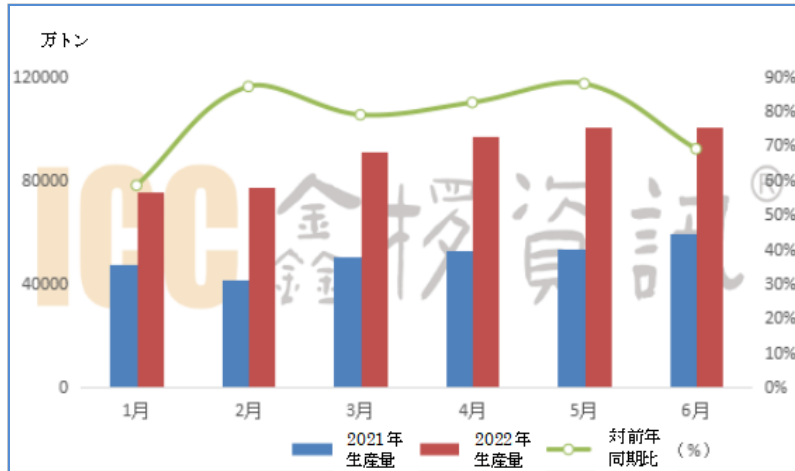
CMI 株式会社

横浜市鶴見区東寺尾中台20~3,301

TEL : 045~717~8575 FAX: 045~717~8683

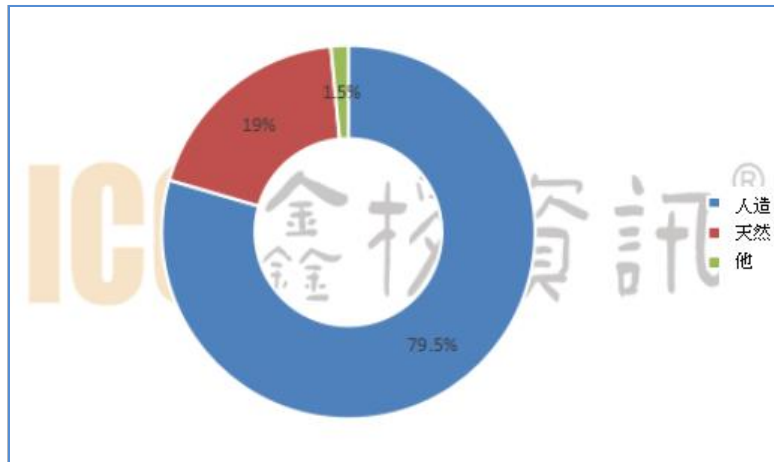
2022 年上半期、中国の負極材市場

ICC 資訊によると、中国のリチウム電池用負極材生産量は 2022 年上半期 60.07 万トンとなり、前年同期を 72%上回った。そのうち 19%は天然黒鉛負極材だった。負極材の生産は上半期に上昇傾向を続け、前年と比較して月平均で 75%以上増加した。



出典：ICC 資訊

図1 月別負極材生産量と対前年同期比（2022 年上半期）



出典：ICC 資訊

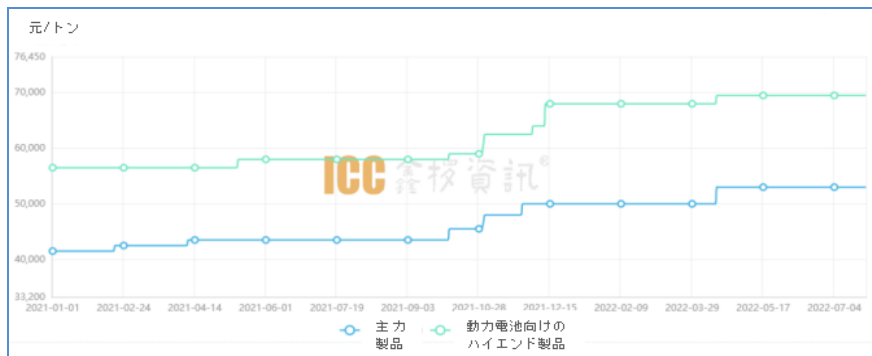
図2 製品別負極材生産量の比率（2022 年上半期）

上半期に急速に増加した生産量に比べ、負極材価格は緩やかな上昇を見せた。負極材業界は 2021 年第 3~4 四半期に大幅な価格上昇を経て、今年 4 月にも小幅に値上がりした。

CMI 株式会社

横浜市鶴見区東寺尾中台20～3,301

TEL : 045～717～8575 FAX: 045～717～8683



出典：ICC 資訊

図3 人造黒鉛負極材の価格推移（2021年1月～2022年7月）

上半期の負極材市場には以下の特徴が見られた。

1. 黒鉛化の価格高騰

負極材製造の黒鉛化工程価格は2020年第4四半期から上昇傾向が続いている。ICC 資訊によると、2020年の黒鉛化価格は1.3万元/トンだったが、2022年6月現在では2.8万元/トンとなり、累計で115%の値上がりとなっている。



出典：ICC 資訊

図4 黒鉛化の価格推移（2020年10月～2022年7月）

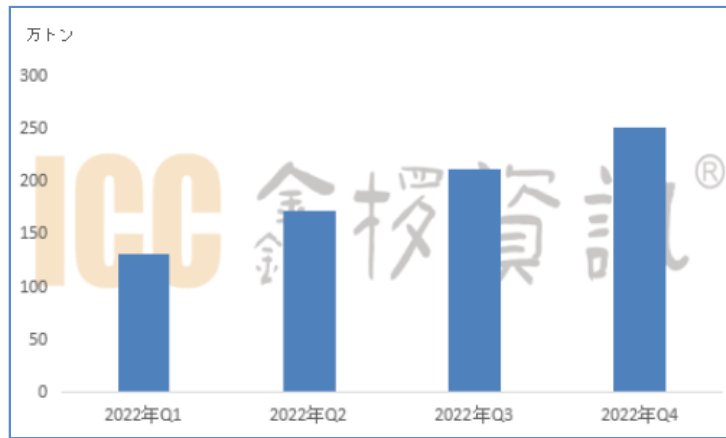
黒鉛化価格が高騰している主な原因は深刻な供給不足である。黒鉛化業界は2019～2020年に低迷期を迎え、生産量は伸びていなかった。2021年の爆発的な動力電池需要の成長に加えて電力使用制限が黒鉛化企業の生産抑制につながり黒鉛化の生産不足が深刻化した。

ICC 資訊によると、黒鉛化生産能力について現時点で500万トンが計画されており、その一部が第3四半期から稼働開始し、第4四半期からは黒鉛化の需給逼迫が徐々に緩和される見通しである。

CMI 株式会社

横浜市鶴見区東寺尾中台20~3,301

TEL : 045~717~8575 FAX: 045~717~8683



出典：ICC 資訊

図 5 黒鉛化生産能力推移の見通し（2022 年）

2. 原料の価格高騰

2021 年から明らかな石油コークス価格の高騰が起き、ニードルコークス価格も第 4 四半期に上昇し始めた。2022 年上半期、石油コークスは 55%、ニードルコークスは 58%値上がりした。



出典：ICC 資訊

図 6 1#A 石油コークスの価格推移（2021 年 1 月～2022 年 7 月）



出典：ICC 資訊

図 7 企業別生コークスの価格推移（2021 年 1 月～2022 年 7 月）

2021 年、負極材の石油コークス需要量は 35 万トンであった。今後も動力電池とエネルギー貯蔵

CMI 株式会社

横浜市鶴見区東寺尾中台20~3,301

TEL : 045~717~8575 FAX: 045~717~8683

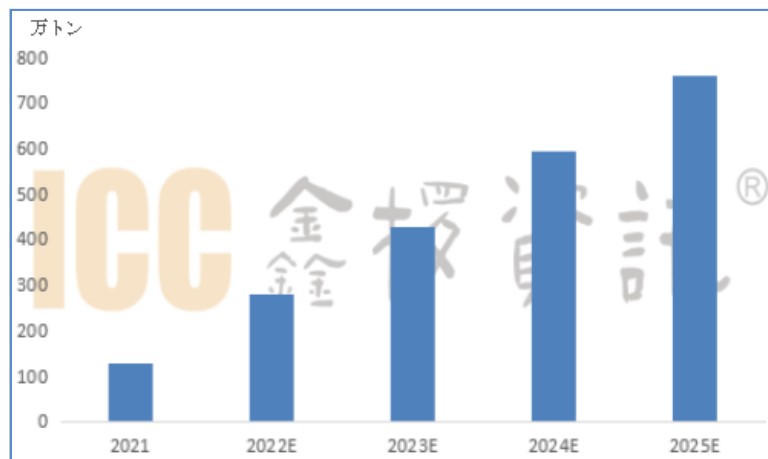
需要の増加にコークスの供給が追いつかないため、負極材企業は引き続き原料価格の高騰が予測されている。

3. 拡張ブーム

リチウム電池用負極材業界は昨年下半期から、既存負極材企業の大規模な生産拡大もあれば、新規参入企業もあり、拡張ブームを迎えている。

ICC 資訊の概略統計によると、計画中的の新規生産能力は 700 万トンを超え、すでに 2030 年のリチウム電池の負極材需要を上回っている。

新規生産能力の稼働開始に伴い、負極材の生産能力は 2023 年に約 350 万トンになる見通しである。



出典：ICC 資訊

図 8 負極材生産能力推移の見通し（2021～2025 年）

全体的に見ると、上半期の負極材市場は需給逼迫のために生産量と価格がともに上昇した。下半期には原料の石油コークスやニードルコークスが値上がりする可能性は低く、新規黒鉛化生産能力の稼働開始が相次ぐため、負極材は値下がりする可能性があるとして予測されている。

情報源：ICC 資訊より整理、作成。